

# 介護実習のしおり

学校法人大原学園

介護福祉学科

《目次》

1：はじめに

2：実習における留意事項

3：実習の目的・目標・内容

    本校における実習の目的

    本校の各介護実習段階における目標

    本校の各介護実習段階における内容

4：実習記録について

    実習記録記入前の準備

    実習記録の意義

    実習記録の目的

    観察記録のための基本的視点

5：実習後の学習について

6：実習にかかる書式

## 1：はじめに

本校における介護実習では、実習生は介護者・支援者と介護・支援を必要とする高齢者・障害を持つ人に対する介護・支援の実習を行います。つまり介護・支援を要する人が生活をする居宅や施設において、利用者に対する理解を深めることを通して個別介護技術の習得を目指すことになります。介護技術の習得に視点をおきすぎると、全人間的に見なければならぬ福祉の視点から外れてしまうことになっていきます。よって、利用者の身体状況に留意することはもちろんですが、心理面やこれまでの生活歴・生育歴などにも十分に留意することが必要です。介護実習という過程の中で利用者から学ぶとともに、施設・事業所職員からもさまざまな考え方を学ぶという姿勢で、実習に臨んでください。

## 2：実習における留意事項

介護実習にはお客様としていくのではありません。学びに行くという姿勢を持って、施設職員に対しては積極的に質問をし、利用者に対しては丁寧な対応を心がけ、出来ない事を安易に約束するような事は慎んでください。また、介護実習の後半において、慣れてきた頃に言葉使いが乱れてくる事がありますが、利用者に対しては『～さん』、施設職員に対しては『～主任』や『～さん』と敬意を持って接するようにしてください。また、実習期間中に指摘された事はその場で若しくは後日修正をして、改めて実習に望むようにして下さい。

利用者本位とはどのようなことを差すのか、ということ常念頭において介護実習に臨むようにしてください。これについては利用者と時間をかけて関わりを持つことで、利用者が臨んでいること、必要としていること（ニーズ）を導き出せるようにして下さい。

学内実習（介護技術など）と施設内での介護方法(技術)には差異があります。その違いについて、その理由などを学ぶ姿勢を持ってください。安易に、違うということについて納得するのではなく、何故この利用者に対してこのような介護方法(技術)で対応するのか、という理由を質問し、理解するようにして下さい。

正当な理由があり、やむを得ず欠席又は遅刻・早退しなければならない場合は、施設の担当者と本校に連絡をして下さい。理由について正当と認められる場合については、学校と施設で協議し、何らかの対応方法を考慮します。

### 3：実習の目的・目標・内容

#### 《本校における実習の目的》

本校では講義、演習、学校内実習で学んだ知識・技術に基づいて、利用者との人間的な関わり合いを深め、利用者が求めている介護ニーズに関する理解力、判断力を養います。さらに日常生活援助に関する介護技術能力を深めると同時に各種の住環境設備や福祉機器の知識と活用能力を養い、指導者のスーパービジョンを受けながら、介護計画の立案や介護過程の展開、記録の仕方について学び、チームの一員として介護業務を遂行する能力を養います。また、施設の運営や通所ケア、訪問介護など居宅介護サービスとの連携について理解し、障害を持たれた方や高齢の要介護者の処遇全般における介護の職務の理解を深めることを目的とします。

#### 《本校の各介護実習段階における目標》

##### 《第1段階》

- ・在宅福祉サービスの概要を知り、介護福祉士の役割が理解できる。
- ・利用者との人間的触れ合いを通じ、利用者の求めているニーズがわかる。
- ・初歩的な日常生活援助技術が基本を踏まえて実践できる。
- ・訪問介護の特性（生活形態、家族との関係、自立支援、家族への援助、保健医療との連携など）学ぶ。
- ・通所サービスの特性（プログラムの特徴、家族との関係、自立支援、他の介護サービスや保健医療との連携など）学ぶ。
- ・できれば居宅サービスを調整する保健医療福祉関係者の集まる会議へ参加する。

##### 《第2段階》

- ・介護福祉士の職業倫理を学び、チームの一員としての役割を理解する。
- ・利用者の持つ障害や疾病に関する基本的知識を得る。
- ・日常生活の援助技術が利用者の状況・状態に応じて用いる事が出来る。
- ・入所施設の概要を知り、介護福祉士の役割が理解できる。

##### 《第3段階》

- ・チームの一員として、施設運営に参加し、処遇全般について理解する。
- ・介護計画の必要性を知り、介護過程が展開できる。
- ・日常生活援助に関する介護技術能力を高め、個々の利用者に応じて用いる事が出来る。

## 《本校の各介護実習段階における内容》

### 《第1段階》

- ・居宅介護サービス（通所系サービス、訪問系サービス）の特性を理解する。
- ・できれば保健医療福祉関係者の集まる会議へ参加する。
- ・居宅介護サービス事業所の方針、特性、構造等を知る。
- ・居宅介護サービス事業所で働く各職種の職員の役割を知る。
- ・居宅介護サービスにおける介護福祉士の日常業務を知る。
- ・介護福祉士として、望ましい態度を身に付ける。
- ・コミュニケーションを通して、利用者の心情を理解する。
- ・介護福祉士として、利用者のニーズに対しどうすればよいのか考える。
- ・利用者にとって安全で快適なサービスの提供について理解する。
- ・利用者の健康状態と日常生活を観察し、理解する。
- ・衣類の着脱の介護が出来る。
- ・体位交換、歩行介助、車いすでの移動等の介護が出来る。
- ・口腔歯牙の生活に関する介護が出来る。
- ・排泄時に必要な介護が出来る。

### 《第2段階》

- ・施設の方針、特性、構造等を知る。
- ・施設の組織、運営、職務を理解する。
- ・施設で働く各職種の職員の役割を知る。
- ・施設における介護福祉士の日常業務を知る。
- ・各職種の連携を理解する。（厨房、看護職、介護職の連携を特に学ぶ）
- ・日曜、祝祭日の業務、早出、遅出、夜勤の業務を知る。
- ・利用者の生活背景を知り、個別性を理解する。
- ・環境整備、健康状態の観察、衣類・寝具の衛生管理が出来る。
- ・移動、食事、排泄、清潔、着脱、衛生管理、安楽に関する介護が出来る。
- ・傷の手当、摘便、浣腸、受診介護等、できれば見学する。

### 《第3段階》

- ・施設運営や居宅介護との連携、並びに通所プログラムにも参加し、家族、地域への働きかけについて学ぶ。
- ・各職種と連携を取りながら、チームの一員として介護業務を遂行する。
- ・介護福祉士の日勤・休日業務、早出・遅出・夜勤業務を理解し、実施する。
- ・個別の利用者の特性からニーズを明らかにし、介護計画を立案する。
- ・介護過程を展開し、評価・考察し、実践に活かす事が出来る。

- ・環境整備、健康状態の観察、衣類・寝具の衛生管理をする。
- ・移動、食事、排泄、清潔、安楽に関する介護が出来る。
- ・褥瘡や傷の手当、摘便、浣腸、受診介護等、見学・観察をする。
- ・終末期の介護、死後の処置について援助方法、対応の仕方を学び実施する。

#### 4：実習記録について

##### 《実習記録記入前の準備》

###### 《実習先施設の見学及びオリエンテーション》

実習先施設の概要や施設設備、周囲の環境、利用者の居住場所の配置、定員や職員数の概要等を記録しておいて下さい。またそのとき感じた問題点や疑問点等を記録しておいて下さい。また、基本となる準拠法令についても必ず押さえるようにしておいて下さい。介護実習に際しては1週間程度を一括りとして期間課題を設定し、それに向けて日々の課題・目標を設定し実習に望むようにしてください。

##### 《実習記録の意義》

###### 《利用者のニーズを分析し、援助の方法を見出す資料》

継続してかかわってきた利用者の言動の変遷を見ることによって、ニーズを表出しにくい利用者の潜在的なニーズを分析することが可能となり、その分析に基づいてどのような援助方法が適切と考えられるのかが推測可能となります。

###### 《スーパービジョンを受ける際の資料》

実習巡回時、または実習指導者とのスーパービジョンの中で、これまでの実習生自身の実習内容を振り返り、客観的に分析することができているのかどうかや、実習が積極的に行われているのかなどをスーパーバイザーがチェックし、今後の実習における留意点などを指導する際の資料となります。スーパーバイザーは実習期間中、実習生のすべてを把握できるわけではありません。よって、実習記録が重要な資料となります。このことにも留意し、自分自身の記録であるとともに、第三者が見る資料でもあるということを理解してください。

### 《実習生自身の「自己覚知」を促す資料》

実習生が実習後に読み返し、自身の記録から自分の当時の考え方や行動を改めて認識し、現在の自身と照らし合わせることによって、あるべき姿や指導者による指導内容を再度自身のものにしていく作業に必須の資料となります。「自己覚知」ということに関しては、市販テキストでは自身の心情の変化や、行動について書かれていないので、自身で書いた実習日誌に勝る資料はありません。しっかりとした記録を取るようになしてください。

### 《実習記録の目的》

- ・実習内容の記録と保全
- ・実習内容の報告
- ・実習内容の振り返り
- ・実習のあり方についての考察

### 《観察記録のための基本的視点》

観察事実それはそれ自身として、価値や意味を持ちます。しかしながらその事実については2つに分けて把握する必要があります。一つは客観的事実、もう一つは主観的事実になります。

日常生活上の皆さんの他者におけるかかわりについて、ある人から見れば親切行為となるかもしれませんが、別の人から見ればおせっかいとなることも考えられます。また行為について客観的に記述するということですが、記録する側によってその行為は変化するということを理解してください。

例えば、列車の中で高齢の方が立って乗っておられ、空席がない状態であるという場面を設定してください。その状況を見た学生が席を譲ろうと席を立ち、高齢の方のほうへ歩き出しました。ここまでを記録するとするならば『空席がない列車の中で高齢の方が立って乗っていた』という客観的な事実を記述することができるはずですが、その続きである波線部分を記述するとき客観的な記述をすると、『学生が席を立ち、高齢の方のほうへ歩いた』となります。ここに『親切心から』や、『高齢の方を気遣って』等の文言が入ると、それは記述者の主観が入った記録になり、事実には脚色したことになります。結果として学生が本当に親切心から行動をおこしていたとしても、その事実を会話の中で導き出さない限りにおいては、記述者がこれまでの経験や知識から推測し、記述した、という風に理解されます。このことに十分留意し、客観的な記述と主観的な記述を明確に分けて記録できるようにしてください。

## 《実習日誌の書き方の留意点》

一つの事実を仮に実習日誌に記述する場合、その事実にはそれがそのようになった原因や背景があります。『利用者が笑った』この事実にも何かを見て笑ったのか、くすぐられたのか、または疾患が原因で笑ってしまったのか、さまざまなが考えられます。それらの原因や背景を注意深く観察しながら、その事実に対してどのように対処したのか、そしてその結果利用者はどのような反応をしたのか、その反応について、なぜそのような反応をしたと考えるのか、ということ実習日誌に記述できるようにしてください。

## 5：実習後の学習について

介護実習の日程が終了した日で、介護実習が完了するわけではありません。実習中における学習をまとめる作業を通して、自分自身の介護観や価値観などをより質の高いものにしていかなければなりません。それらの過程を一通り終えた時点で介護実習が終了したと考えることができます。

介護実習中に配布された資料や実習記録は、可能な限り施設ごとに1冊のファイルにしておくことが望ましいと考えます。また、介護実習後に実習日誌に書き込むことがあるのであれば、色を替えるなどして判るようにしておいたほうが、事後に読み直した際に読みやすくなります。

もし介護実習中に疑問点があり、それを介護実習期間中に解決できなかったことなどがあれば、それを学内の介護実習指導時に疑問点としてあげ、ほかの学生や教員と話し合う中で解決するという方法や、自分自身で資料などを参考にしながら解決することも必要でしょう。

その他に同じ施設で実習を行った学生や、同形態の施設での介護実習方法などを参考にし、自分自身の介護実習はどうであったのか、よりよい実習方法があったのではないかと、ということを考える場を持つことも非常に重要であると思われます。

## 6：実習にかかる書式（別紙添付）

# 実習日誌

## 《介護実習 第 段階》

実習施設（事業所）名

---

自令和 年 月 日（ ）

至令和 年 月 日（ ）

学生証番号

---

学生氏名

---

学校法人 大原学園



## 実習施設(事業所)の概要

学生証番号		フリガナ	
実習期間	年 月 日～ 年 月 日	学生氏名	
施設名 (事業所名)		施設長 (代表者)	
所在地			
施設種別		定員	
施設、または事業所の沿革 および 付帯事業			
施設環境 (設備・構造)			
周辺環境 (地域との関係)			
施設 (事業所) の理念、 方針			
職員構成			

利用者の状況							
利用人数	人	要介護度5	人	要介護度2	人	要支援2	人
男性	人	要介護度4	人	要介護度1	人	要支援1	人
女性	人	要介護度3	人	平均要介護度			
その他							
年間行事予定							
年間行事予定		週間予定	月				
			火				
			水				
			木				
			金				
			土				
			日				
利用者の1日の生活の流れ							



観 察 ・ 活 動 記 録 ( 実 際 に 行 っ た こ と )	考 察
目標に対する評価, 本日の実習で学んだこと, 反省・課題 など	
実 習 指 導 者 の 助 言	

印

## 〔第1段階〕介護実習自己評価表

学校名		フリガナ		
		学生氏名		
学年	第	学年	学生証番号	
施設名 (事業所名)		実習指導者名		
実習期間				年 月 日 ~ 年 月 日
評価項目		評価基準		自己評価
援助者としての態度	礼 節	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から進んで挨拶ができる</li> <li>・節度ある言葉遣いや態度で実習に取り組むことができる</li> </ul>		1・2・3・4・5
	実習態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者として、指導を謙虚に受けとめ、目標をもって積極的に取り組むことができる</li> </ul>		1・2・3・4・5
	服装・身だしなみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・髪型・爪・服装など実習生として適切である</li> </ul>		1・2・3・4・5
	チームワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の役割を自覚し、協調できる</li> </ul>		1・2・3・4・5
専門職としての技能・知識	施設(事業所)理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設(事業所)の目的・役割・事業を理解する</li> </ul>		1・2・3・4・5
	コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から関わる努力ができる</li> <li>・聞きとりやすい声、表情、目線などに気をつけている</li> <li>・傾聴、受容が行える</li> </ul>		1・2・3・4・5
	介護技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎を踏まえた介護技術が実践できる</li> </ul>		1・2・3・4・5
	利用者についての理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活状況を理解できる</li> <li>・利用者の行動や様子を観察することができる</li> <li>・利用者の話を聞き、質問できる</li> </ul>		1・2・3・4・5
	観察・記録・報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察と考察を、適切に表現できる</li> <li>・記録を通して反省できる</li> <li>・適切な報告ができる</li> </ul>		1・2・3・4・5
評価基準	1: かなり努力を要する    2: 努力を要する    3: 普通    4: 良い    5: 非常に良い			
課題と反省				

## 〔第 2 段階〕介護実習自己評価表

学校名		フリガナ		
		学 生 氏 名		
学年	第	学年	学生証番号	
施設名		指導者名		
実習期間				年 月 日 ~ 年 月 日
評 価 項 目		評 価 基 準		自 己 評 価
援助者としての態度	礼 節	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な言葉遣いができる</li> <li>・好感をもたれる挨拶ができる</li> </ul>		1・2・3・4・5
	実習態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者として、指導を謙虚に受けとめ、目標に対し積極的に取り組むことができる</li> <li>・規律規則に従える</li> <li>・報告・連絡・相談がきちんとできる</li> </ul>		1・2・3・4・5
	服装・身だしなみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・髪型・爪・服装など実習生として適切である</li> </ul>		1・2・3・4・5
専門職としての技能・知識・資質	概要・役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の目的・役割・構造などを理解している</li> <li>・介護福祉士の業務、役割について理解している</li> </ul>		1・2・3・4・5
	利用者とのコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者と状況に応じたコミュニケーションができる</li> </ul>		1・2・3・4・5
	日常生活に関する介護技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安楽・安全に留意し、原理原則に従っている</li> <li>・利用者の障害に応じた介護技術の提供ができる</li> </ul>		1・2・3・4・5
	観察・記録・報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習目標に添った日誌が書け、表現も適切である</li> <li>・提出物の期日を守る</li> </ul>		1・2・3・4・5
	利用者についての理解 介護過程の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の意向・ニーズを理解するための適切な情報収集及び情報の解釈ができる</li> <li>・利用者の状況を把握し、自立支援への取り組みについて考えられる</li> <li>・介護計画立案に必要な利用者の情報収集ができる</li> </ul>		1・2・3・4・5
	他職種との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他職種との連携の必要性と方法を理解できる</li> </ul>		1・2・3・4・5
	専門職としての自己覚知	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感情や態度を意識的にコントロールできる</li> </ul>		1・2・3・4・5
総合評価				1・2・3・4・5
評価基準	1:かなり努力を要する    2:努力を要する    3:普通    4:良い    5:非常に良い			
課題と反省				

### 〔第3段階〕介護実習自己評価表

学校名		フリガナ		
		学生氏名		
学年	第	学年	学生証番号	
施設名		指導者名		
実習期間				年 月 日 ~ 年 月 日
評価項目		評価基準		自己評価
援助者としての態度	礼 節	・社会人としての礼儀作法を身につけている		1・2・3・4・5
	実習態度	・学習者として、指導を謙虚に受けとめ、目標に対し積極的に取り組むことができる ・規律規則に従える ・報告・連絡・相談がきちんとできる		1・2・3・4・5
	服装・身だしなみ	・髪型・爪・服装など実習生として適切である		1・2・3・4・5
専門職としての技能・知識・資質	概要・役割	・施設の目的・役割・構造などを理解している ・介護福祉士の業務、役割について理解している		1・2・3・4・5
	利用者とのコミュニケーション	・様々な利用者や状況・状態に応じ、信頼を得るコミュニケーションができる		1・2・3・4・5
	日常生活に関する介護技術	・安楽・安全に留意し、原理原則に従っている ・利用者の障害・状況に応じた介護技術の提供ができる ・なぜそのような介護が行われているかを考え実践できる		1・2・3・4・5
	観察・記録・報告	・実習目標に添った日誌が書け、表現・考察も適切である ・提出物の期日を守る		1・2・3・4・5
	利用者理解及び介護過程の展開	・利用者の意向・ニーズを理解するための適切な情報収集及び情報の解釈ができる ・利用者の状況を把握し、自立支援への取り組みができる ・利用者の望む生活に向けての介護計画立案・実施・評価ができる		1・2・3・4・5
	他職種との連携	・他職種との連携の必要性和方法を理解し、実践方法について考えられる		1・2・3・4・5
	専門職としての自己覚知	・専門職として必要とされる自己について理解し、感情や態度を意識的にコントロールできる		1・2・3・4・5
総合評価				1・2・3・4・5
評価基準	1: かなり努力を要する    2: 努力を要する    3: 普通    4: 良い    5: 非常に良い			
課題と反省				